

## 第2回 安全衛生推進大会

一般社団法人 東京都産業資源循環協会

企画運営：安全衛生推進委員会

東京都産業資源循環協会は、令和8年1月26日(月)15時よりホテルニューオータニ「芙蓉西の間」(千代田区紀尾井町)において、第2回 安全衛生推進大会を執り行いました。厚生労働省東京労働局地方産業安全専門官による講演、安全衛生標語コンクール授賞式、「SAFETY IDEA ♥東産協」好事例発表など1時間40分にわたるプログラムで、会員各社の経営層を中心に労働安全衛生の一層の徹底を呼びかけました。

(取材 塩沢美樹)



会場（講演風景）

### 1 開会



羽田 委員

定刻、鈴木研二専務理事が開会を宣し、安全衛生推進委員会の羽田委員の司会により進行されました。

### 2 主催者挨拶

#### ■ 鈴木宏和 会長

本日は、お忙しい中、本大会にご参集いただき誠にありがとうございます。

また本日はご来賓として、厚生労働省東京労働局より安全課長の三浦玲様にご臨席を賜り、またご



講演をいただく講師として地方産業安全専門官の照井健一様においでいただいております。御多忙の中ご参加を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日は当協会の第2回目の安全衛生推進大会でございます。昨年、労働災害を少しでも減らしたいとの思いから、当協会として初めて安全衛生推進大会を開催いたしました。

東京の産業廃棄物処理業の労災事故発生件数は、近年全国最多クラスで推移しており、令和6年には死傷者数147名、2年連続で全国ワーストワンになりました。残念ながら死亡した方も2名いらっしゃいました。これが令和7年の統計を見ますと大きく改善しております。11月末までの速報値ですが、死傷者数は83人に、死亡者数は0となっております。12月分を含めた1年間の数字はまだ発表されておりませんが、令和7年の労災死傷者数は大きく改善したと言えるかと思えます。死亡者数もこのまま年間0を達成し、これをまた継続してほしいと願っております。これが、この安全衛生推進大会の結果だと言えるかどうかはわかりませんが、東京都内の産業廃棄物処理業者の労働災害状況が改善したことは確かであります。安全衛生に対する皆さんの取組が結果を上げたことを大変喜ばしく思っております。

さて、そうは申ししましても、これで気を緩めるわけにはいきません。労働事故はちょっとした気の緩みで発生します。毎朝注意を呼びかけ、いつもどおり仕事をしていても、ちょっとしたことで事故が突然発生します。それゆえ、労災事故の防止には、個人の注意にとどまらず、組織として取り組むことが重要で、

そのためには経営者が引き続き強い決意を持つことが不可欠です。

そうしたことから、本年の大会も会員各社の経営層の方々に参加を呼びかけ、経営者や幹部の皆様にお集まりいただいております。どうぞ皆様、本年も気を引き締めて、現場の安全衛生に取り組んでいただきますよう切にお願い申し上げます。本日はこの後、東京労働局の安全専門官にご講演をいただきますほか、昨年募集いたしました安全衛生の好事例、「SAFETY IDEA♡東産協」の優秀賞の表彰などがございます。安全衛生に関するちょっとした工夫を共有しようと、昨年、厚生労働省の取組にならい、「SAFETY IDEA」を募集いたしました。その結果、45件の応募をいただき、本日、各社の取組事例を展示しております。皆様、この会場に入るときにご覧いただいたかと思いますが、ぜひこれらの好事例を参考にいただき、職場の安全衛生向上に役立てていただきたいと思います。今、私どもの業界は、廃棄物処理から資源循環へ、循環経済の中核的な担い手として飛躍を期待されております。循環型社会に主要産業として魅力ある業界へと発展していくためには、人材を確保しなければなりません。そのためにも職場の安全衛生は大きく寄与することと思います。今後も皆様からご意見をいただきながら、協会の安全衛生対策を充実させてまいりたいと思いますので、皆様の一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。労災0を目指して共に取り組んでまいりましょう。

結びに、本日お集まりの皆様のご安全、ご健康を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。

## ■ 細沼順人 安全衛生推進委員長



皆様、本日は第2回安全衛生推進大会にご参集いただき、誠にありがとうございます。長年、都内産業廃棄物処理業の労働災害が全

国最多の状況になり、協会として強い危機感を持っておりましたことから、昨年、協会として初めて第1回安全衛生推進大会を開催いたしました。昨年、都内産業廃棄物処理業の労働災害事故は改善へと転じました。

昨年11月、関東地域協議会で全国産業資源循環連合会（全産連）の室石専務理事から産業廃棄物処理業における労働災害状況の報告がありました。休業4日以上の死傷者数は、平成24年から右肩上がりに増え、令和6年、死傷者数は全国で1,613人となっております。都道府県別に見ますと、東京都は平成30年以降、毎年のように100人を超える死傷者が発生しており、令和5年には埼玉県と並んでワースト1位、令和6年には147人と単独でワースト1位となっております。危機的な状況でした。

一方、令和7年の状況ですが、厚生労働省の統計労働災害発生状況の速報値を見ますと、11月末現在の東京労働局管内の休業4日以上の死傷者数累計は83人、死亡災害発生状況では11月末現在の死亡者数は0となっております、大きく改善しております。

安全衛生推進委員会では、例年、労災防止と安全衛生向上のために、安全衛生表彰、安全パトロール、安全衛生標語の募集など様々な取組を行っております。安全衛生標語については、この後、優秀

作品の表彰がございますが、昨年はこれらに加えて、会員各社の安全衛生の好事例を募集する「SAFETY IDEA♡東産協」を実施いたしました。厚生労働省が行っている「SAFE（Safer Action For Employees）アワード」に倣って、各社が取り組んでいる好事例をシートにまとめていただき、ご報告いただいたものですが、大変多くの応募があり、45件の取組事例を挙げていただきました。

これまでなかなか結果を出せず、鈴木会長からも「何とかしてくれよ」と常に言われ続けた委員長の私に、わが安全衛生推進委員会のメンバーが、これでもか、これでもかと湯水のごとくアイデアを出し、議論を尽くして取組をアップデートさせた結果が出始めた感激しているところでございます。努力は嘘をつきません。

本日会場にお入りになる際、皆様には展示してある「SAFETY IDEA」に星形のシールを貼って投票いただきましたが、この後、一番投票の多かった取組を壇上で紹介することにしております。大きな投資をしなくても取り入れられるものも多くございますので、ぜひご参考にされて、アイデアと工夫で社員の安全に役立てていただきたいと思います。

労災事故は会社にとって損失となるばかりでなく、社員ご本人とご家族の人生を大きく変えてしまいます。皆様におかれましても、安全衛生を第一に考え、経営者自らが強い決意をもって取り組んでいただきたいと切に願っております。

皆さまの会社が安定して発展していくためには、社員が安心して働ける労働環境を実現することが大変重要です。今、循環経済への移行が叫ばれ、新しい時代への変革を担う資源循環業として飛躍が



期待される中、社会の信頼を勝ち取り、社会に貢献する企業となっていくためには、安全な労働環境の確保が大変重要です。人手不足が深刻化する中では、人材確保の面からも大変重要な課題です。この業界の未来のために、そしてこの業界で働くお一人お一人の幸せを守るために、今こそ本気で労働災害ゼロを目指して取り組んでまいりましょう。

会員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。ご安全に。

### 3 来賓祝辞

#### ■ 厚生労働省 東京労働局 労働基準部 安全課長 三浦 玲氏



東京都産業資源循環協会の皆様、会員の皆様、関係の皆様におかれましては、日頃から労働安全衛生行政の推進にご理解、ご協力を賜りまして、厚く御礼を申し上げます。

また、本日の第2回安全衛生推進大会が盛会のうちに開催されまして、お慶びを申し上げます。

さらに、本日は全産連会長の感謝状、安全衛生標語コンクールの表彰式も行われるとお聞きしています。受賞される皆様におかれましては、日頃からの活動に敬意を表しますとともに、重ねて御礼を申し上げます。

さて、東京都内におけます令和7年の労働災害の発生状況につきましては、12月末時点の速報値で、全産業では9,789名となっておりまして、前年同期と比較しますと321名、3.2%の減少と

なっています。このうち、廃棄物処理業におきましては207名となっておりまして、前年同期比で77名の減少となっています。

また、死亡者数につきましては、令和5年以前には数件発生していましたが、令和7年におきましては、12月末時点の速報値では0名で、皆様の取組の成果だと感じています。

さらに、廃棄物処理業におきましては「転倒」が最も多くなっています。本日お配りしています資料（※1）にありますように、20代前半と比べますと、50代後半にはぬるま湯のカエルのように、平衡機能が48%程度、瞬発反応が71%程度、動作の反動が85%程度と徐々に低下します。そうなりますと、普通に歩いていると転びそうになったり、転びそうになったときに反応できなくなったり、反応できたとしても間に合わなくなったりといったことで、転倒につながりやすくなってしまいますので、適度な運動、適度な栄養、適度な休養といったことを心掛けていただきたいと思います。

また、最近は少子高齢化も進んでいて、いろいろな業界で人材不足が懸念されています。それを補うためもありまして、外国人人材の受け入れ拡大が進んでいますけれど、資料（※2）にありますように、日本語は平仮名、片仮名、漢字といった文字の体系が複数ありまして、文法構造も複雑で、外国人にとっては難しい言語です。このため、外国人労働者は、日本語そのものの理解が不十分で、コミュニケーション不足となり、安全の理解や危険の伝達が不十分になってしまうといった可能性があります。外

国人と一緒に働く方におかれましては、はっきり、最後まで、短く、これをはさみの法則といいます。また、ジェスチャーや実物を提示する、ガチャガチャ、コンコンといったオノマトペ（擬音語・擬態語）を使わないなど、やさしい日本語を意識していただきたいと思います。

くわえまして、令和7年、先般の国会におきまして改正労働安全衛生法が可決され、既に順次施行されています。

資料（※3）にありますように、1つ目が、個人事業者等の安全衛生対策の推進で、一人親方のような個人事業者にも安全衛生対策といったものが必要になってくるというもの。

2つ目が、ストレスチェックについて、これまでは50人以上の職場が対象だったけれども、全ての事業場に拡大されることになるもの。

3つ目が、危険性・有害性に関する通知（SDSシート）の義務に罰則付きになり、通知変更があった場合の再通知も義務化されるといったもの。

4つ目が、ボイラーなど特定機械等の製造許可及び製造時等検査制度の見直

し、フォークリフトなど特定自主検査及び技能講習の不正防止対策の強化といったもの。

5つ目が、高年齢労働者の労働災害防止の推進です。皆様には、これまでエイジフレンドリーガイドラインに基づく取組をお願いしていましたが、高年齢労働者への労働災害防止対策が努力義務化され、ガイドラインが指針化されることになっていますので、指針が発出された際には、それに基づく取組をお願いしたいと考えています。

最後の6つ目が、治療と仕事の両立支援の推進で、これに関するものも努力義務化されまして、新たに指針が発出される予定ですので、これに基づく取組を行っていただきたいと思います。

終わりに当たりまして、一般社団法人東京都産業資源循環協会の皆様、会員の皆様、関係の皆様の更なるご発展、ご健勝を祈念しまして、私からの挨拶とさせていただきます。

ご安全に。

---

※1「ヘルシーボディを目指しましょう！」

※2「カインドコミュニケーションを心掛けましょう！」

※3「労働安全衛生法及び作業環境測定法 改正の主なポイントについて」



「ヘルシーボディを目指しましょう！」 「カインドコミュニケーションを心掛け  
ましょう！」 「労働安全衛生法及び作業環境測定法 改正の主なポイントについて」

## 4 講演『産業廃棄物処理業における労働災害防止対策について』

講師：

東京労働局  
労働基準部安全課  
地方産業安全専門官  
照井 健一 氏



### 1 廃棄物処理業の死傷災害発生状況

※ ここでは廃棄物処理業＝産業廃棄物処理業＋その他の廃棄物処理業

#### (1) 廃棄物処理業の死亡災害の推移

東京労働局管内の死亡災害は、令和元年～6年では減少傾向にあり、令和6年は34人で、前年から大幅な減少でした。

一方、廃棄物処理業については、毎年発生している状況にあり、令和5年は3人、令和6年は2人でした。

#### (2) 死傷災害（休業4日以上）

令和6年12月末現在の死傷者数（全業種）は1万1,403人で、前年と比較して0.1%の増加でした。

廃棄物処理業については、増加傾向にあり、前年に比べて18.6%と大幅な増加となりました。

#### (3) 死傷災害事例

死傷災害事例については、同種災害が繰り返し発生しているという事実がございます。

令和4年～6年の事例として、熱中症による災害、フォークリフトの整備中のフォークの落下、パッカー車の逸走によるはさまれ、資源回収中の交通事故、などがあります。災害事例については労働

局のホームページに掲載しておりますので、定期的に事例を把握し、労働者に周知いただくだけでも、重大な災害を防ぐ一つの気づきになると思います。前向きな取組を進めていただく一方で、こうした災害を絶対に繰り返さないという気持ちも忘れないようお願いいたします。

ここまで廃棄物処理業における災害が近年増加という状況をお伝えしたところですが、令和7年につきましては12月末現在の速報値で

死亡	0人
----	----

となっております。

また、死傷災害につきましても、12月末現在で207人と、前年に比べて27.1%の大幅な減少となっております。いろいろな要素がありますので、一概には言えませんが、協会様をはじめ会員の皆様のお取組の大きな成果と言えるかと思えます。

労働災害で死亡するといったことは本来あってはならないことと思います。来年度もこの場で「令和8年の災害が0でした」と言えるように、協会の皆様とともに取組の推進を図っていきたいと思っております。

## 2 SAFE コンソーシアム

「SAFE コンソーシアム」は厚生労働省が2022年度から行っている取組で、今年度、新たに東京都協会様にも加入いただきました。ありがとうございます。

近年、転倒や腰痛など労働者の作業行動を起因とする労働災害が増加しているという状況があります。この背景として、産業構造の変化、成長産業における人手不足、働き方の多様化、顧客第一の文化、

従業員の安全を守る視点の欠如、対策に取り組むメリットが見えない等が挙げられます。

こうした中、これまでの取組では、これらの災害を減少させることは困難とされ、労働災害を改めて社会問題として捉え、顧客も含めたステークホルダー全員で解決策を考え、取り組んでいくことが必要だという考え方が示されました。

こうして厚生労働省の取組として始まったのがSAFE (Safer Action For Employees) コンソーシアムです。従業員の幸せのための安全アクションを推進する活動体の名称で、趣旨に賛同した企業団体等でコンソーシアムを構成して、労働災害問題の協議、加盟社間の取組の共有、マッチング、労働安全衛生に取り組んでいきます。

加盟には事務局の承認が必要になりますが、参加は無料で、SAFE ロゴマークを使用できたり、また、この後説明する「SAFE アワード」という表彰に参加できたりして、企業のPRにもなるというものになっています。

下の2次元コードから「SAFE コンソーシアム」ポータルサイトに飛べますので、ぜひご確認ください。

「SAFE コンソーシアムアワード」について少しご紹介しますと、労働災害防止や安全健康の増進のために安全衛生の取組事例を募集して表彰するというもので、サイトでは過去の受賞事例をご覧いただけます。安全衛生の取組状況がとてもよくわかり、いろいろな気づきがあります。



このアワードに応募することを目的に

して、いろいろと取り組んでみるというのも一つの方法ではないかと思います。東京都協会様から2025年度に応募いただいた事例も掲載しています。「経営者が安全を語らなければ事故は止まらない。経営トップの意欲改革施策」ということで、この安全衛生推進大会を題材に応募されました。本大会を契機に、経営者の意識改革をして業界の未来を変えろといった強いメッセージが感じられます。

余談ですが、サイトの中に「転倒予防川柳」というコーナーがあります。日本転倒予防学会と厚労省が共催で毎年募集していきまして、労働災害に限定しているものではないですが、「滑る」「つまずく」に対して非常にユーモラスなアプローチをしていて、毎年楽しく見させていただいています。令和7年の大賞「AIに 転ばぬ先の チェモろう」や、厚労省特別賞「転倒の 予防に骨折り 骨折らず」など、傑作ぞろいです。こちらは、どなたでも自由に応募できるものです。こんな形で楽しみながら転倒予防を意識していくというのもいいのかなと思ひまして、ご紹介させていただきました。

### 3 年末・年始 Safe Work 推進強調期間の取組等

#### (1) 年末年始 Safe Work 推進強調期間

令和7年12月1日～8年1月31日までの期間中実施しています。本安全衛生推進大会もこの期間内に実施しており、勝手ながら当局の取組の一環とさせていただいています。今週いっぱいまで期間がありますので、皆様におかれましては、ぜひご確認くださいと思います。内容は、皆様へのお願いとして「年末・年始の繁忙期をとらえた計画的、か



つ、安全衛生に配慮した事業の運営」「事業場内に『Safe Work』のロゴマークを掲示することなどによる労働災害防止の気運の醸成」「各関係団体幹部、各事業場の経営トップによるパトロールの実施」「積雪凍結等冬期における転倒災害防止、交通労働災害防止対策の徹底」など 10 項目をあげています。

7 月の安全週間、10 月の衛生週間については周知が進んでいると思いますが、年末年始 Safe Work 推進協調期間についても定番化いただきまして、東京労働局とともに取組の推進をお願いしたいと思っております。

## (2) 東京労働局の取組

年末年始セーフワーク推進強調期間内の取組として「私の安全衛生宣言コンクール Safe Work TOKYO 2025 表彰式」、「東京労働局長による年末年始の建設現場安全パトロール」等を実施し、ホームページで公開しておりますので、他業種の取組なども参考に見ていただけますと幸いです。

## (3) 労働災害防止の取組

労働災害防止をお願いするに当たりまして、本年度労働局で作成した資料をご紹介します。

災害発生状況を踏まえてポイントをまとめて作成しておりますので、関係する情報、リンク等も掲載していますので、事業場での周知啓発等で使っていただければと思います。左下の 2 次元コードからダウンロードできるようになっております



ので、適宜ご利用いただければと思います。

## (4) 積雪や凍結による転倒災害を防ぎましょう

本年度もリーフレットを更新して作成しています。令和 6 年 2 月 5 日から 6 日にかけて、関東地方で積雪 8 センチの雪がありました。このとき、転倒災害が大幅に増加しまして、2 月 5 日が 1 年で一番（全業種、東京都内）、転倒が多かった日になりました。雪が降ると転倒が増えます。屋外の移動作業時には路面凍結にも注意が必要です。2 月以降もこうした状況が考えられますので、改めて周知をお願いします。

## (5) 高齢労働者の労働災害防止

最後に、全業種で課題になっております高齢者の安全衛生対策です。

今般、労働安全衛生法が改正されて、高齢労働者の労働災害防止に必要な措置の実施が努力義務化（令和 8 年 4 月 1 日施行）されました。具体的には、労働安全衛生法 62 条「中高年齢者等についての配慮」に加えて、62 条の 2 が追加され、高齢者の労働災害防止のための措置が規定されることになります。厚労省のホームページから「高齢者の労働災害防止のための指針」（案）を見ていただけます。これもぜひ重点として新しく出る指針を参考に、取組を進めていただきたいと思います。

東京労働局は、引き続き、東京都協会の皆様と一丸となって労働災害防止の取組を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



## 5 労働安全衛生における全産連会長名の感謝状贈呈

公益社団法人全国産業資源循環連合会では、今年度より労働災害防止に対する意識高揚を図るため、労働者の安全と健康を確保するための事業活動の推進に多大な貢献をした個人、事業者、その功績を称えて感謝状を贈ることとなりました。

今回は、西原拓氏（株式会社五十嵐商会）、株式会社都市環境エンジニアリングに感謝状が贈られました。

## 全産連感謝状



左から西原氏、鈴木会長、  
都市環境エンジニアリング（新川代表取締役）

## 6 安全衛生標語コンクール授賞式

今回の「第5回安全衛生標語コンクール」には238件の応募がありました。この中から安全衛生推進委員会で選考した委員長賞1点、優秀賞2点、佳作3点の方を表彰し、細沼委員長より、受賞

者の方々へ賞状が授与されました。

受賞者の皆様、おめでとうございます。

※ 入賞作品については本誌第425号もご参照ください。

✳ 安全衛生推進委員会 委員長賞 東京ボード工業 株式会社 矢路川 新吾 氏

ヒヤリで済んだその経験 みんなで共有！報・連・相

✳ 優秀賞 東京ボード工業 株式会社 佐藤 純 氏

キケン作業・注意し合える良い仲間 みんなで作ろう明るい職場

✳ 優秀賞 大谷清運 株式会社 金子 勝 氏

気付いたら すぐに相談 すぐに改善 みんなの意見で安全職場

✳ 佳作 株式会社 三菱商事 堀内 翔 氏

上手さより安全に スピードより確実に 心と体にゆとりを持って

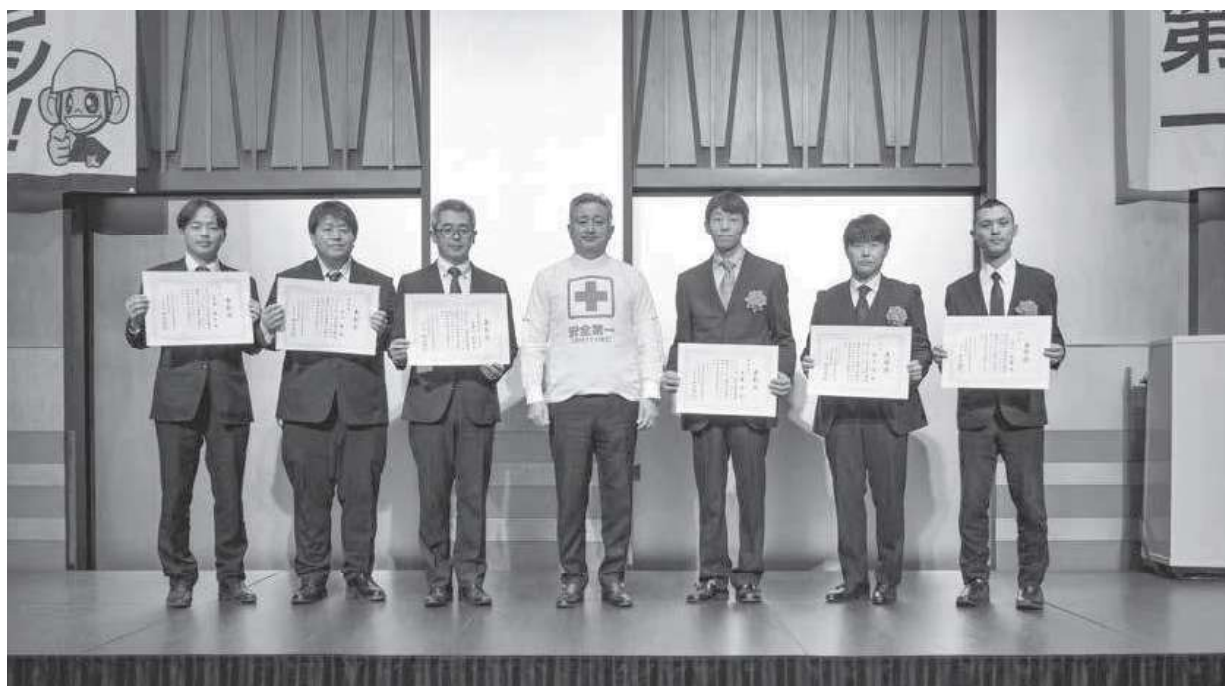
✳ 佳作 成友興業 株式会社 高橋 勝吾 氏

声かけは 安全作業の第一歩 みんなでつくろうゼロ災職場

✳ 佳作 成友興業 株式会社 竹江 宏曜 氏

安全は最高の成果 今日でも無事故で笑顔の帰宅

## 安全衛生標語コンクール 受賞者の皆さま



左から高橋勝吾氏、金子勝氏、門川彰吾氏（矢路川新吾氏代理）、細沼委員長、佐藤純氏、堀内翔氏、竹江宏曜氏

## 7

セーフティアイデア  
「SAFETY IDEA ♡ 東産協」  
安全衛生好事例発表

新企画として、会員の皆様から安全や衛生に関する取組事例を募集し、45件の応募がありました。この中から、安全衛生推進委員会で優秀賞を選出、また、本日来場の皆様の投票により、上位2事例を「キラリと光ったde賞」として発表しました。

## (1) 第1回「SAFETY IDEA ♡ 東産協」優秀賞

株式会社 調布清掃の「新人ドライバーの育成と車両事故防止に関する取組」事例が受賞されました。

同社業務部運行管理者主任の松田武志氏が登壇し、取組内容をまとめた動画と進行役の草村委員によるインタビュー形式で、取組のポイントを説明しました。

## (2) 「キラリと光ったde賞」

成友興業株式会社、株式会社調布清掃が受賞されました。



上から)

- ・「キラリと光ったde賞」の投票風景
- ・「SAFETY IDEA ♡ 東産協」優秀賞発表の様子
- ・表彰状を手にする松田氏



※「SAFETY IDEA ♡ 東産協」優秀賞と「キラリと光ったde賞」受賞の取組は協会ホームページに掲載予定



## 8 安全宣言

安全衛生推進委員会 細沼 委員長より  
鈴木会長へ安全宣言が行われました。

## 9 ガンバロー・コール

吉田委員、草村委員の「今年1年ガンバロー」の掛け声で、会場が一体となり「ガンバロー」と唱和しました。



吉田委員



草村委員

## 10 閉会

鈴木専務理事の閉会宣言をもって「第2回安全衛生推進大会」は盛会裏に終了しました。



細沼委員長（左）より鈴木会長へ安全宣言



ガンバロー